

「平成23年度主要農作物品種審査会(稲・大豆)」会議録

1 日時：平成23年2月15日(水)

2 場所：宮城県行政庁舎 9階 第一会議室

3 出席者

- (1) 審査会委員：國分牧衛，中鉢充，布田順一，秋山耕，齋藤満保，丸山恵史，高橋正道，水多昭雄
- (2) 審査会幹事：江畑正徳，千葉芳則，日塔明広，大久保栄喜

4 会議録

(午後2時開始)

○ 事務局(廣上技術補佐)

ただ今より，主要農作物品種審査会を開催します。
開会のあいさつを國分会長よりお願いいたします。

○ 國分会長

(あいさつ)

開会にあたりまして，一言挨拶申し上げます。

審査会は，年2回開催されまして2月は稲と大豆について御審議いただきます。

今回は新しい品種候補はありませんが，長年宮城の大豆品種として活躍してくれた「スズユタカ」が今回廃止することで提案されています。

あわせて，稲及び大豆の奨励品種決定調査に供する品種について審議いただくこととなります。

昨年は，東日本大震災という特別なことがありました。そのような中でも土地利用型作物の情勢は動いておりますが，いかに情勢が動いていても宮城で米，大豆及び麦を作る限りにおいては，品種が基盤になることは変わらないと考えています。

どのように栽培するかという観点も大事な要素ではありますが，その前提としてどういう遺伝的な性質や素質を持っているかを見極め，良い遺伝子を持っている品種を選択していくということが基本となりますので，委員の皆様におかれましては，皆様の立場で見えていただきたいと思います。よろしく御審議お願いいたします。

○ 事務局(廣上技術補佐)

(出席者の紹介。委員1名の欠席及び8名の出席について報告し，会議が成立することを説明。)

○ 事務局(廣上技術補佐)

それでは，審議に入りたいと思います。ここからの進行は，主要農作物品種審査会条例第5条1項の規定によりまして，会長が議長となることとなっておりますので國分会長をお願いしたいと思います。國分会長よろしくお願いいたします。

○ 國分会長

それでは審議に入りたいと思います。資料1ページに知事からの諮問事項が書いてありますので，諮問内容を読み上げます。大豆奨励品種「スズユタカ」を廃止することについて，平成24年度奨励品種決定調査に供する品種について，稲と大豆の3点でございます。まず最初に，大豆奨励品種「スズユタカ」を廃止することにつきまして事務局から御説明をお願いします。

○ 事務局(佐藤技術主幹)

(資料により，大豆奨励品種「スズユタカ」を廃止することについて説明。)

- 國分会長
ただいまの説明に対して、ご質問・ご意見がありましたらお願いします。

- 國分会長
平成 20 年は、145ha 程作付けされていて、それ以降急激に減少しましたが、要因についてつかんでいる事項があれば説明願います。

- 事務局(佐藤技術主幹)
「スズユタカ」の減少とともに「タンレイ」が若干増加していることと、主に生産していた登米地域の生産者は、「タンレイ」へと品種の転換をしていることを確認しています。

- 國分会長
「スズユタカ」は、ウィルス抵抗性 A, B, C, D まである非常に優れた特性を持っている品種でした。「タンレイ」、「あやこがね」のウィルス抵抗性はどの程度あるのか説明願います。

- 事務局(三上研究員)
「タンレイ」は、A, B のみで、「あやこがね」は、A, B, C, D 全てついていますので、「あやこがね」であれば、ウィルス抵抗性については同程度と考えて良いと思います。

- 齋藤委員
品種特性表を見ると、「スズユタカ」の百粒重は、「タンレイ」などに比べると小さいが、この点も関係しているのでしょうか。

- 事務局(三上研究員)
近年は粒大の大きい品種が好まれる傾向があると感じています。

- 國分会長
煮豆用であれば、粒大が大きい方がいいと思いますが、豆腐用であれば大きさは関係ないと思いますが、いかがでしょうか。

- 事務局(佐藤技術主幹)
豆腐用であれば、大きさよりタンパク含量等の内部成分の方が重要視されると思います。

- 國分会長
その他ご意見が無いようなので、大豆奨励品種「スズユタカ」を廃止することについては、原案のとおりでよろしいでしょうか。

- (賛同の声)

- 國分会長
それでは次に、平成 24 年度奨励品種決定調査に供する品種（稲）について、事務局から説明願います。

- 日塔幹事
(資料により、平成24年度奨励品種決定調査に供する品種(稲)について説明。)

- 國分会長
ありがとうございました。
まず質問をお受けしたいと思います。

- 國分会長
確認ですが、障害型冷害の耐冷性に関しては、極強と記載しているものと極強の中でも9というランク付けがありました。が、「ひとめぼれ」がどのランクにあって、数値が記載されていない品種は、「ひとめぼれ」と比べてどうなのか説明願います。

- 事務局(日塔総括研究員)
「ひとめぼれ」は、極強の8になります。特に断りのない極強と記載している品種は、「ひとめぼれ」と同程度と考えて良いと思います。極強の9や極強の11と記載している品種はさらに耐冷性が高いと数値でも表せるほど違いがあるということでもあります。

- 齋藤委員
低アミロース米は、白濁が無いほうが良いのでしょうか。

- 日塔幹事
低アミロース米は、単品で販売されることは少なく、他のうるち米とブレンドして販売されることが多いので、出来るだけ白濁はない方が良く考えています。この点からも、10%から15%程度に収まるような低アミロース系統が望ましいと考えています。

- 秋山委員
私も低アミロース米を作って10年ぐらいになりますが、検査で1等米と評価されることはありません。検査員からも良くて2等だといわれています。低アミロース米は、全てがそのような評価なのですか。
弁当屋から「たきたて」の問合せがよくあります。弁当屋は冷めてもおいしい米が必須なことから30%ブレンドすることによって、おいしさが保たれると話されていました。
「たきたて」は、100%だと「もち」のようで好みは分かれるのでしょうか、ブレンドするとおいしいなと感じています。
宮城県の品種は全て優れていると思います。「ひとめぼれ」は硬質米、「ササニシキ」は軟質米で、このような2種類の代表する品種があるのは、宮城県だけなのかなと思っていますが、時代の流れなのか、「ひとめぼれ」主体の育種になっており、「ササニシキ」を継承する品種が出てきていないことを残念に感じていますので、その点について考えていただきたいと思います。

- 國分会長
「ササニシキ」をベースにした品種については、昨年話題になったと思いますが、その点について補足して下さい。

- 日塔幹事
この後の「その他」において、「ササニシキ」の食味を継承している「東北194号」について説明することとなっております。

- 國分会長
低アミロース米については、この特性に対応した検査基準がないのかどうかについて説明願います。
- 事務局(東北農政局 新井田検査技術指導官)
「たきたて」などの低アミロースの検査については、一般のうるち玄米の規格となっており、低アミロース米の検査の規格はありません。白未熟や乳白等は落等の要因となっておりますが、白濁することが品種の特性であるという場合は整粒と判断するということになるかと思えます。
- 事務局(高橋技術補佐)
平成 23 年産米の検査結果について (12 月 31 日現在)
「たきたて」は、358 t 検査されまして、1 等米が 53.1%、2 等米が 45.1%、3 等米が 1.7%です。
「ゆきむすび」ですが、32 t 検査されまして、1 等米が 33.7%、2 等米が 53.3%、3 等米が 9.5%、規格外が 3.4%という数字になっております。
- 國分会長
1 等はあるようですが、「ひとめぼれ」の 7~8 割の 1 等米比率に比べると、少ない感じがします。落等の原因は、白濁なのかなと考えます。1 等をコンスタントに出すということは、他の品種よりも難しいと言えるかもしれませんね。
- 國分会長
その他ご意見が無いようなので、平成 24 年度奨励品種に供する品種 (稲) は、原案のとおりでよろしいでしょうか。
- (賛同の声)
- 國分会長
それでは次に、平成 24 年度奨励品種決定調査に供する品種 (大豆) について、事務局から説明願います。
- 日塔幹事
(資料により、平成 24 年度奨励品種決定調査に供する品種 (大豆) について説明。)
- 國分会長
ありがとうございました。
まず質問をお受けしたいと思います。
- 國分会長
成績概要では、東北 164 号に二重丸がついていまして、現地の 3 箇所において「タンレイ」に比べて収量が多くなっています。しかし、審査会の資料においては、収量は同程度かやや少ないと記載されていますが、これは 3~4 年の成績からみてこのような評価なのか補足説明をお願いします。
- 日塔幹事
「東北 164 号」は、場内試験の標播だと「タンレイ」に比べて 93%と収量は若干低いのですが、晩播だと 109%で若干多くなります
- 國分会長
昨年の現地試験において、播種期が 6 月上旬ですので標播とっていいですね。それでも「タンレイ」比、115%、143%、100%になっており、3 箇所とも「タンレイ」を上回っている成績になっています。特に石巻ではかなり上回っているので、昨年の成績だけみると「タンレイ」より多収という評価になりますね。

○ 事務局(三上研究員)

昨年の場内の試験をもとに収量は同程度かやや少ないと評価しました。場内や現地の過去の成績を総合的に評価すると同程度ということになるかと思えます。

「東北164号」は、「タンレイ」より播種期を遅くした方が収量が上がると考えており、現地においては、場内より若干播種期が遅れているので、収量が伸びているのだと推察しています。

○ 國分会長

耐病性に関して、本調査に供している系統は、ウィルスに関する耐性はあるのですが、センチュウは弱の系統が複数あるのですが、宮城県の場合は、センチュウはさほど問題になっていないという認識でよろしいでしょうか。

○ 事務局(三上研究員)

センチュウが問題になっているという現地の話は聞かないのですが、育成地からの情報で弱、中と記載しています。品種を選択する際には、最重要項目ではないのですが、検討は行っています。

○ 國分会長

その他ご意見が無いようなので、平成24年度奨励品種に供する品種(大豆)は、原案のとおりでよろしいでしょうか。

(賛同の声)

○ 國分会長

ありがとうございました。

本日は、3項目について御審議いただきましたが、3項目とも妥当ということでよろしいでしょうか。

(賛同の声)

○ 國分会長

異議がないようですので、そのように答申したいと思います。文言については、事務局と相談して、答申したいと思いますかいかがでしょうか。

御了承いただいたようなので、そのように事務処理を進めさせていただきます。

諮問事項については、この3点でございますので、今日の審議はこれで終了とさせていただきます。それでは議長の任を解かさせていただきます。

○ 事務局(廣上技術補佐)

ありがとうございました。

それでは、事務局より次回の審査会について御連絡させていただきます。当審査会につきましては、年2回開催させていただいておりますけれども、今回は9月が開催予定となっております。内容といたしましては、平成24年度の奨励品種決定調査に供する麦類の品種等について御審議を賜りたいと考えております。

具体の日程につきましては、開催時期が決まりしだい御連絡を申し上げたいと思いますので、委員の皆様には御出席のほどをよろしくお願ひいたします。

それでは、以上をもちまして本日の主要農作物品種審査会を終了させていただきます。委員の皆様には長時間にわたり御審議いただきありがとうございました。

(午後2時45分終了)